

R6専門部会の取組

- ・ 課題が多様化していることを踏まえ、複数の部会を設置し、それぞれの部会で議論を展開
- ・ 現場を支える実務担当者も交えた意見交換・議論を展開
- ・ R6年度は「普及啓発部会」、「人材確保部会」、「若手PT」の3部会体制で実施

各部会のテーマ

普及啓発部会

【テーマ】福祉業界全体のイメージアップ

東京都福祉人材確保対策推進協議会として、参画団体が一体となって福祉人材集中PR期間にムーブメントを起こすための議論を行う

人材確保部会

【テーマ】次世代の福祉人材確保

コロナ禍で減少した主に小中高生の学校教育における地域の当事者や福祉の実践者との直接的な関わりを充実させるための取組を検討

若手PT

【テーマ】若手職員の視点を、福祉人材確保対策（普及啓発含む）に反映

就活イベント、大学主催のキャリアセミナーへの出展に向け、求職者に対して、福祉の仕事を身近なものとして印象付けるために、どのようなアプローチが効果的か等について検討

本部会の目的

コロナ禍で減少した小中高生の学校教育における地域の当事者や福祉の実践者との直接的な関わりを充実させるため、各主体の取組・都事業との連携方策や効果を高めるための改善策など、次世代の福祉人材確保に向けたアプローチを活性化させる方法について意見交換を行う

● 次世代の福祉人材に係る取組状況

- ▶ ボランティア・市民活動センターの取組 <「夏の体験ボランティア」キャンペーン（令和元年度）>
 - ・ 参加者数8,823人(うち、小・中・高校生の参加者7,126人)
 - ・ 活動プログラム数3,677件（うち、福祉関係は3,131件）
- ▶ 区市町村社協の取組 <次世代の福祉人材確保に向けた小・中・高校生向け取組の実施状況について（令和元年度実績）>
 - ・ 職場体験を実施している区市町村社協は62団体中15団体
 - ・ 出前講座を実施している区市町村社協は62団体中52団体
- ▶ 東社協調査 <質と量の好循環を目指した福祉人材の確保・育成・定着に関する調査2022報告書>
 - ・ 平成28年度に実施した調査では、56.0%の福祉施設が「毎年、中学生の職場体験を受け入れている」と回答していたが、コロナ禍の令和4年度に実施した同調査では33.4%に減少

スケジュール

第1回

令和6年7月24日（水）

次世代の福祉人材確保に向けた取組①
（各主体の取組について現状の把握）

第2回

令和6年10～11月（予定）

次世代の福祉人材確保に向けた取組②
（各取組を有機的に繋げていくための方策の検討）

第3回

令和7年2～3月（予定）

議論のまとめ、次年度以降に向けた検討

(参考) 各専門部会の構成団体

普及啓発部会

- 東京都高齢者福祉施設協議会
- 保育部会
- 知的発達障害部会
- 『民間事業者の質を高める』全国介護事業者協議会
- 東京社会福祉士会
- 東京都介護福祉士会
- 東京労働局
- 市
- 町村

人材確保部会

- 東京都介護保険居宅事業者連絡会
- 児童部会
- 身体障害者福祉部会
- 区市町村社会福祉協議会部会
- 東京都老人保健施設協会
- 全国保育士養成協議会
- 日本介護福祉士養成施設協会
関東信越ブロック協議会 東京部会
- 日本ソーシャルワーク教育学校連盟
- 東京ボランティア・市民活動センター
- 特別区
- 都立赤羽北桜高等学校 ※オブザーバー

若手PT

- 東京都高齢者福祉施設協議会
- 東京都介護保険居宅事業者連絡会
- 知的発達障害部会
- 身体障害者福祉部会

※若手職員は入職3年目～5年目までの職員を想定。